深い学びのために

学習のポイントの解答例

1　**「丹後へ遣はしける人は参りたりや。」（二四・6～7）という言葉には、誰の、どのような気持ちが込められているか、考えてみよう。**

【答】小式部内侍が歌合を前にして、丹後にいる母親の和泉式部のもとに使者を遣わして助けを求めたことを想定し、その使者が戻ってきたかどうかを定頼が尋ねていること。

小式部内侍だけの力では歌合にふさわしい和歌を作れないので、母親で有名な歌人である和泉式部に手伝ってもらったのではないかと疑う気持ち。

▼ポイント▲　定頼の発言に込められた心情は、直接的に叙述されているわけではないので、きちんと類推することが重要である。「丹後へ遣わしける人は」という発言は、すでに小式部内侍が使者を送ったことを根拠もなく決めつけている言い方で、極めて挑発的である。場面の雰囲気なども含めて、生徒に想像させたい。

2　**「大江山」の歌で、小式部内侍は定頼にどのようなことを伝えようとしたのか、まとめてみよう。**

【答】歌合のための和歌作りの指南を頼もうとして、母である和泉式部と手紙のやり取りをしたことなどなく、自分ひとりだけで和歌をつくる能力を持っているのだということ。

▼ポイント▲　まずは、和歌の大意を押さえることが重要である。さらに、直前部分で、定頼が小式部内侍に対して「母親の和泉式部の協力がなければ、優れた和歌を詠むことができないのではないか」という趣旨の挑発をしていることを踏まえることで、解答を導くことができる。

和歌の表現には直接含まれていない「自分ひとりだけで和歌をつくる能力を持っているのだということ」という要素を読み取ることができるかどうかがポイントである。

《板書例》　定頼の心情

返歌ができない
①焦り・うろたえ
②小式部内侍の作品につりあう返歌を詠むことの難しさ

言葉と表現の解答例

1 **本文中から形容詞を全て抜き出して、活用形と活用の種類をまとめてみよう。**

【答】・心もとなく（ク活用・連用形）・遠けれ（ク活用・已然形）・あさましく（シク活用・連用形）

▼ポイント▲　活用形については、「①接続」「②活用表の暗記」の二つの視点から決定していくことが大切である。生徒の状況に合わせて順次解説する、という流れでよいのだが、①と②のいずれも重要な知識であるので、丁寧に解説したい。

　活用の種類については、形容詞に助詞「て」を接続させ、「～くて」となったらク活用、「～しくて」となったらシク活用だと判断させるのも、一つの方法である。

言葉活動の解答例

1 **「大江山」の歌について、**

(1) **「いくの道」「ふみもみず」には、それぞれ二つの意味が掛けられている。どのような意味が掛けられているか、まとめてみよう。**

(2) **この歌のどのような点が素晴らしいと考えられるのか、話し合ってみよう。**

（意図）和歌は限られた音数で表現するため、いくつかの決まった修辞を用いることで、表現に幅を持たせる。それらの修辞は作者の感動や思いを相手に伝えようとするためのものである。その一つである掛詞について理解させる。

（手順）

1　「いくの道」「ふみもみず」の箇所に掛けられている意味をそれぞれ書き出してまとめる。図解して整理させてもよい。（ポイント参照）

2　1を踏まえ、掛けられている二つの意味を生かして現代語訳する。なめらかな一文にすることより、二つの意味を捉え、二つの文脈を現代語訳に反映しているかを重視したい。

3　「大江山」の歌のどのような点が素晴らしいかを話し合わせる。掛詞の技巧の妙味だけではなく、掛詞を用いて詠んだ和歌に込められている小式部内侍の心情を読み取らせる。

（ゴール）「大江山を越えて行く道の遠いかなたのことですので、

私はまだ天橋の立も踏んでみたことがありません。」という、母のいる丹後は作者のいる京都から遠く離れている事実を告げる歌の文脈の中に、「母からの手紙は見ておりません」という文脈が重なっているのである。景物と心情とはっきり分けられるようなものではないが、景物を詠んでいるように見せかけながら、別の文脈を用いて言いたいことをそこに込めているところまで読み取らせたい。

▼ポイント▲　掛詞とは、同音異義語を利用して、一つの語に複数（通常は二つ）の意味を持たせる技巧である。一方の意味は自然などの景物で、もう一方は心情にかかわるものであることが多い。歌の中ではひらがなで表現される語が、漢字では二種類に書き分けられてそこに二つの意味が生じると考えることもできる。作者の心と具体物が重なり、奥行きのある歌となる。一首の中に、二つの文脈が存在することになり、それぞれを現代語訳する。

行く
大江山いく[生]の道の遠ければまだふみ[踏み]もみず天の橋立
生（野）　文　も見ず

（小林　俊洋）